

令和 5 年 8 月の解説（週間天気予報）

【8 月の天候状況】

上旬は、北日本と東日本を中心に太平洋高気圧に覆われやすく晴れた時期があったため、降水量は東日本日本海側で少なく、日照時間は北日本太平洋側と東日本日本海側で多くなりました。一方、北海道地方で前線が停滞し、曇りや雨となり、記録的な大雨となった所がありました。南西諸島付近を通過し九州の西を北上した台風第 6 号や、東・西日本太平洋側を中心に暖かく湿った空気が流れ込みやすかった影響で、東日本、西日本と沖縄・奄美で曇りや雨となり、記録的な大雨となった所がありました。このため、降水量は沖縄・奄美でかなり多く、北・西日本日本海側と東・西日本太平洋側で多かったほか、日照時間は沖縄・奄美でかなり少なく、西日本太平洋側で少なくなりました。特に、沖縄・奄美の降水量平年比は 479%となり、1946 年の統計開始以降、8 月上旬として 1 位の多雨となったほか、日照時間平年比は 38%となり、1961 年の統計開始以降、8 月上旬として 1 位の寡照となりました。北日本を中心に暖かい空気に覆われやすく、また南から暖かい空気が流れ込みやすかったため、平均気温は北日本、東日本、西日本でかなり高くなりました。一方、台風第 6 号の影響で周辺の海面水温が低下したため、沖縄・奄美の平均気温はかなり低くなりました。

中旬は、15 日に和歌山県に上陸した台風第 7 号の影響で大量の暖かく湿った空気が流れ込んだため、東日本と西日本を中心に記録的な大雨となった所があり、降水量は北・東・西日本太平洋側で多くなりました。15 日には鳥取県で大雨特別警報が発表されるなど、各地で土砂災害や河川の増水・氾濫、浸水の災害が発生しました。一方、期間のはじめや終わりには、太平洋高気圧に覆われて東日本を中心に晴れた日が多かったため、北・東日本日本海側と東日本太平洋側で日照時間が多く、北・東日本日本海側で降水量が少なくなりました。南から暖かい空気が流れ込みやすく、日本海側ではフェーン現象も発生したため、平均気温は北日本と東日本でかなり高く、西日本で高くなりました。特に、北日本の平均気温平年差は+3.1℃となり、1946 年の統計開始以降、8 月中旬として 1 位の高温となりました。一方、周辺の海面水温の低い状態が中旬も続いたため、沖縄・奄美の平均気温は低くなりました。

下旬は、北日本と東日本を中心に太平洋高気圧に覆われて晴れた日が多かったため、降水量は北日本太平洋側でかなり少なく、北・東・西日本日本海側で少なくなりました。また、日照時間は北・東日本日本海側と北日本太平洋側でかなり多く、東日本太平洋側と西日本日本海側で多くなりました。特に、北日本日本海側の日照時間平年比は 158%となり、1961 年の統計開始以降、8 月下旬として 1 位の多照となりました。南から暖かい空気が流れ込みやすく、日本海側ではフェーン現象も発生したため、平均気温は北日本と東日本でかなり高く、西日本で高くなりました。平均気温平年差は、北日本で+5.3℃、東日本で+2.6℃となり、1946 年の統計開始以降、8 月下旬として北日本で 1 位、東日本で 1 位タイの高温となりました。湿った空気の影響を受けた西日本太平洋側の降水量は多くなりました。沖縄・奄美では、高気圧に覆われやすく晴れた日が多かったため、平均気温は高く、日照時間は多く、降水量は少なくなりました。

【8 月の検証結果】

「降水の有無」の全国平均の適中率(3～7 日目平均)は、例年値（注）よりも 6 ポイント高い 70%でした。地方別の適中率では、四国地方で例年値と同じだった以外は、各地方で例年

値を上回りました。最高気温の予報誤差(2～7日目平均)は、全国平均で例年値よりも0.3℃小さい2.0℃で、東北、関東甲信、東海、北陸、近畿、九州南部の各地方で例年値よりも小さくなりました。また、最低気温の予報誤差(2～7日目平均)は、全国平均で例年値よりも0.3℃小さい1.3℃で、北海道、沖縄を除く各地方で例年値よりも小さくなりました。

(注) 例年値は気象庁HP(予報精度検証)内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【10月の週間天気予報の利用にあたって】

秋から冬にかけて日照時間が次第に短くなり、気温も急激に下がっていきます。10月は晴れる日が多く、行楽の機会も増えますが、気温の変化が大きい時期でもありますので、週間天気予報を利用する際には天気だけでなく、気温にも注意してください。